

2025年2月3日
 特種東海製紙株式会社
 十山株式会社
 静銀経営コンサルティング株式会社

しずおか地産地消 J-クレジット「南アルプスカーボンクレジット」の販売開始 ～製紙と環境の両輪による成長を目指して～

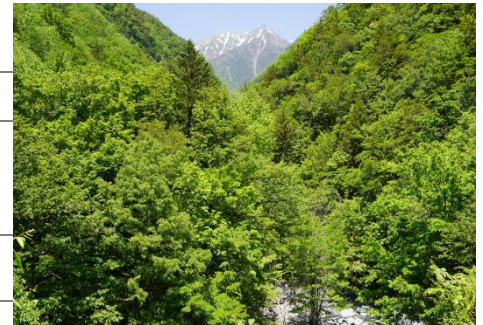
特種東海製紙グループの十山株式会社（代表取締役 鈴木康平）では、南アルプス地区（静岡市葵区）に保有する井川社有林を活用し、「南アルプスカーボンクレジット」の販売を開始しましたので、その概要をご案内します。

本クレジットは、しずおかフィナンシャルグループの静銀経営コンサルティング（社長 鈴木淳史）の支援を受け、J-クレジット制度のプロジェクト登録、クレジット認証の取得に至りました。また、販売業務についても同社が担当し、地域の持続的な発展を目指して地産地消のカーボンニュートラルの推進に取り組めます。

1. 販売開始日 2月3日（月）

2. J-クレジットの概要

創出者	十山株式会社
創出地	南アルプス（静岡市葵区）社有林 国立公園、南アルプスユネスコエコパーク、 自然共生サイト認定地を含む森林
創出量 （二酸化炭素換算トン）	1,410 t-CO ₂
販売量	50 t-CO ₂ 単位～
認証期間	2023年4月1日～2024年3月31日
登録年月	2023年3月（登録期間／2023年4月1日～2039年3月31日）



3. クレジット創出地における取組について

- 本クレジットは、十山株式会社が南アルプス地区に保有、管理する社有林（24,430ha）にて創出されたもので、当地では、トウヒなどの針葉樹や落葉広葉樹など多様な樹種による豊かな天然生林が広がっています。
- 特種東海製紙グループでは、1895年以降、100年以上に渡って南アルプスの森林を管理し、環境保全に取り組んできました。こうした活動は、井川社有林の基本理念「自然を守り、自然を生かす」に基づくもので、豊かな森林資本を管理することで、森林の持つ多面的機能や生物多様性を高め、社会のサステナビリティ向上につなげることを目指しています。
- この地の樹木は、かつては針葉樹を中心に建築材として使用されてきましたが、現在では、社有林内で開始したウイスキー製造における樽材に活用するなど、新たな事業の創出にも取り組んでいます。



しずおか地産地消J-クレジット第一号プロジェクト

南アルプス カーボンクレジット

循環モデルで多様性のある森林、自然資本を守る

南アルプスの 雄大な自然が育んだカーボンクレジット

南アルプス社有林（井川社有林）とJ-クレジット

十山株式会社では、1895年の取得以来、グループを挙げてこの雄大な南アルプス社有林を保全し、管理をしています。この森林は、1964年に国立公園として指定を受け、その後1970年代に静岡県の保安林として指定を受けました。2014年には、南アルプスユネスコエコパークへ登録、2023年には自然共生サイトに認定されました。そして、2024年3月にJ-クレジットプロジェクト登録がなされました。

十山株式会社は「自然を守り、自然を活かす」という基本理念のもとに、この雄大な自然環境を、社会のために、そして未来の世代のために、守り、より良いものとする活動に取り組んでいます。

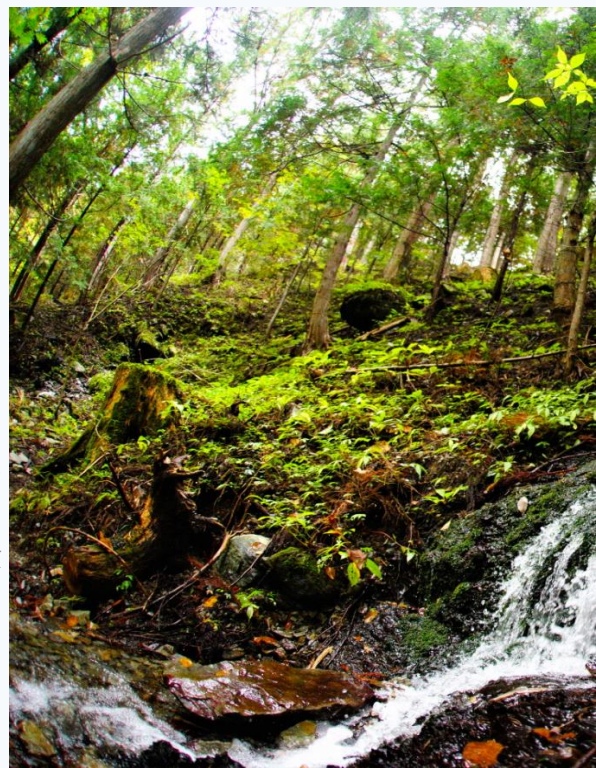
この活動によって生み出された環境価値(CO2吸収量)が、南アルプスカーボンクレジット(J-クレジット)です。

自然を守り、自然を活かす



森林への関わりの歴史

1895年、創業者の大倉喜八郎が「井川山林」を取得し木材生産を開始しました。大倉喜八郎は、その後、木材生産を行ってきましたが、輸入材の台頭や1982年の大型台風により林道が壊滅的ダメージを受けたことなどから木材生産を休止しました。その後は、一貫してこの壮大な森林を後世に残すための活動を行なって参りました。2017年には、これを明確化すべく「井川社有林基本計画」を策定、取組を更に強力なものとするべく、2020年に十山株式会社を設立しました。

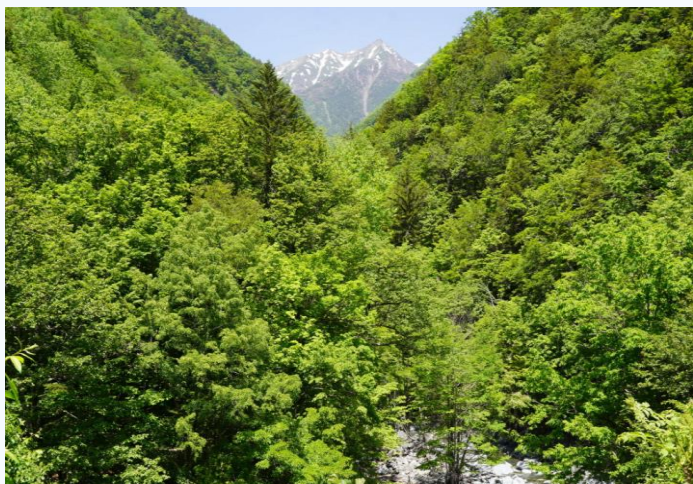


井川蒸溜所

南アルプス社有林では、ウィスキーの製造も行っています。南アルプスの森林でろ過された湧き水は、最高の仕込水です。また、この地に自生するミズナラは原酒を熟成させる樽としても使用されています。



社会のサステナビリティ向上に貢献する



私たちの暮らしを守る森林

井川社有林はその80%が天然生林であり、さらにこの内の約30%にあたる4,600haが保安林です。

保安林とは、森林が持つ多面的機能を利用して、人々の生活や財産を守るために設定された森林のことです。

保安林として認定されるには、森林法に基づく一定の基準を満たす必要があります。基準を満たした森林のみが都道府県知事から保安林として指定され、国の認定を受けることができます。保安林として指定を受けた森林は、伐採などの制限が設けられ、その機能を維持するための管理が行われます。

国内でも稀有のプロジェクト

南アルプスカーボンクレジットは、ユネスコエコパークや自然共生サイトに登録されているクレジットです。ユネスコエコパークや自然共生サイトに登録されるということは、ユネスコや関連機関から持続可能な開発と自然保護を目指す地域であることの認定を受けているということです。つまり、南アルプスカーボンクレジットはその地域の取り組みが国際的に評価されています。このような森林のプロジェクトは国内でも珍しく、希少であるといえます。

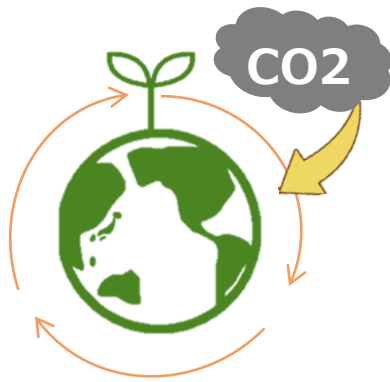


私達は自然からの恩恵を自然環境へお返しする使命がある



将来に向けて

十山株式会社は自然からの恩恵を自然環境へお返ししていくため南アルプスカーボンクレジットを創出、販売し井川山林の保全へ利用していきたいと考えています。森を守ることは、生物の生存環境を保護し、生物多様性を維持することにも繋がります。また、森は水の品質を保ち、地下水を浄化する役割も果たしています。森林が適切に保護されることで、地域の水源が守られ、私たちの生活や農業、産業が守られていきます。森の大切さを認識し、人々に伝えていくこと、森を守る取り組みを続けていくことは、私たち自身と未来の世代のためにとっても重要な使命なのです。持続可能な未来のために自然環境との共生を実現していきましょう。



カーボンニュートラルとは

カーボンニュートラルとは、二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスを地球上で増やさない状態、つまり「差し引きで排出量ゼロ」を目指す考え方です。具体的には、私たちが日常生活や産業活動で排出するCO₂を、植林などによる吸収や、再生可能エネルギーの利用拡大、省エネルギー技術の進歩などを通じて、排出量と同じだけ削減または相殺することを指します。これにより、地球温暖化の進行を抑えることが狙いです。

地産地消カーボンニュートラルの考え方

静岡県内のCO₂(GHG)排出量を静岡県内の吸収量によってオフセット



地産地消カーボンニュートラル

「静岡県内のCO₂排出量」を「静岡県で創出されたカーボンクレジット」でオフセットする考え方です。地産地消により、地域の持続可能な発展、静岡県全体の活性化を目指します。

地域全体のバランスの取れた発展

地域全体の持続的な成長実現

中山間地の発展



過疎化、中山間地での産業・雇用の減少、地域産業（林業等）の衰退、環境破壊による災害の増加などの社会課題の解決

包摂性

- 新たな価値の創造
- 一部業界に偏らない経済・社会・生活の発展

J-クレジットを通じた
地域共創・共生・循環モデルの構築

カーボンニュートラル実現という
社会課題の解決、
社会価値の創造



産業の発展



カーボンオフセットとは

カーボンオフセットとは、自らの活動によって発生する温室効果ガスの排出量を削減しきれない場合、その排出量に相当する分を他の場所で生じた環境価値（削減活動や吸収量）でオフセット（相殺）することです。例えば、自社排出量全体（Scope1分等）や個別の活動（社用車の燃料使用に係る排出量等）、自社商品やその製造過程における排出量のオフセットに活用することができます。

地域共創・共生・循環モデル

地域で生み出された環境価値とその対価としての経済価値を循環させることにより、持続可能な地域の発展、地域のカーボンニュートラルの実現を目指す取組を、地域共創・共生・循環モデルの構築として推進しています。

お問い合わせ先

静銀経営コンサルティング株式会社
サステナビリティオフィサー
堀 慶彦（ほり よしひこ）

電話：080-8673-3205

電話：054-348-1491

FAX：054-348-1479

メール：hori.yoshihiko.smc@jp.shizugin.com